

神奈川県金融経済概況（2015年9月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は足もとでは弱めの動きとなっている。輸出は持ち直しつつある。設備投資は増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として緩やかに改善している中で、個人消費は底堅く推移している。この間、住宅投資は改善しているほか、公共投資は増加している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 足もとでは弱めの動きとなっている。

- ・ 輸送機械は、外需向け部品が好調なものの、外需向けトラックや国内向け乗用車が低調に推移するなど、足もとでは減少している。
- ・ 素材関連は、鉄鋼が外需の減退などから弱めの動きとなっているものの、石油製品の伸びや化粧品を持ち直しなどから、全体としてはごく緩やかに持ち直している。
- ・ 電気機械は、情報通信関係の設備投資需要が一服しているほか、電子部品・デバイスなどで外需の弱まりがみられており、減少が続いている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、海外向け建機などで一部弱めの動きがみられるほか、半導体等製造装置や工作機械の伸びが一服していることから、減速している。

(2) 輸出： 持ち直しつつある。

- ・ アジア向けなどに弱めの動きがみられるものの、北米向けやヨーロッパ向けを中心に増加しており、全体として持ち直しつつある。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 6月短観における、15年度の設備投資計画は、製造業・非製造業ともに業容拡大を企図した増投資や新拠点・新店舗の設置計画が一段と積み増されており、全産業ベースで大幅な増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として緩やかに改善している。

- ・ 7月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.12倍と、前月の水準（1.08倍）を上回った一方、4-6月の完全失業率は3.6%と、1-3月（3.4%）から悪化している。

(5) 個人消費： 底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、高額品が好調であるほか、天候要因から盛夏衣料が増加するなど、堅調に推移している。
- ・ スーパー売上高は、食料品を中心として堅調に推移している。
- ・ 家電販売額は、天候要因からエアコン等の季節家電の売上が好調なことから増加している。
- ・ 新車登録台数は、一部の新型車投入効果などは持続しているものの、軽自動車の集中的販促活動の反動等の影響が残っており、全体としては持ち直しが遅れている。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、一部に弱い動きもあるが、多くの地域で堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 改善している。

- ・ 着工ベースでみると、貸家は増加基調が持続しているほか、持家、分譲戸建てなども振れを伴いつつも増加がみられており、改善している。

(7) 公共投資： 増加している。

- ・ 15/7月の公共工事請負額は、前年並みとなっている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、中小企業向けに拡がりが見られるほか、不動産・住宅関連向けの伸びが続いており、引き続き増加している（貸出金末残前年比：6月+1.8%→7月+1.4%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利前月差：6月▲0.009%P→7月▲0.007%P）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金で安定した伸びが持続しているほか、法人預金も伸びていることから、引き続き増加している（実質預金末残前年比：6月+3.5%→7月+3.3%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。